

## 2023年度 第3回 学校運営協議会

1 日時 2024年（令和6年）2月20日（火） 14:00～15:30

2 場所 図書館

3 参加者

宮本 和香	学校関係者評価委員
古山 貴規	JTB
羽白 裕子	PTA会長
羽田 知世	さくらホーム
細田 暁 (オンライン)	横浜国立大学教授
平岩 千尋 (オンライン)	学校医
上野 リサ	穴吹情報デザイン専門学校講師
友瀧佳司之	福山市立鞆の浦学園 校長

4 内容

① 授業参観

② 学校説明

◆学校長より取組説明

- ・先日、9送会が行われた。卒業を迎える9年生に対し、学園会を中心に企画したゲームを楽しんだ。義務教育学校ならではの良さを感じられた。
- ・2回目の協議会以降も、たくさんの行事や活動に取り組み成長してきた。直近では鞆こども商店街に参加した。子ども達が企画し、鞆学で学んだことを展示したりブースで説明したりした。今日は現4年生が「幸せの丘」にバラを植栽した。地元の方を幸せにしたい、2025年世界バラ会議に向けてこの丘をバラで埋め、観光客の憩いの場にしたい、という思いで3年目を迎えている。夏休みの出品で最優秀賞を取ったベンチも丘に設置予定である。

◆授業参観の所感を

(宮本)

- ・授業では、先生の言われたことに対して自主的に取り組んでいる。家庭科ではミシンの使い方を相談し合っているのが印象的だった。

(古山)

- ・ローズガーデンプロジェクトの取組はとても良い。ぜひ推進してほしい。取組にあたっては、どんどんアウトプット、発信があったらいい。

(バラ会議の期間中), ローズエキスポもやっている。5月のプレイベントに出てみてはどうだろう。

- 2025年の大阪万博は、1970年の万博時と同規模である。こういうものを見せることで子ども達の視野を広めることができる。福山の子ども達に見せてあげられないものか。

(上野)

- 1年生を参観した。前回より落ち着いており、本当に生き生きとしている。授業後は近寄って話しかけてきた。鞆の子どもらしい。
- ベンチコンテストにしてもポスター作りにしても、引き続き学園に関わっていきたい。

(羽田)

- 授業の様子を見て、教室の雰囲気が良いと感じた。先生と生徒が双方向で参加できている。これなら学校に行くのが楽しいだろうな、と感じさせる。
- 幸せの丘については、集いの場を学校が作ろうとしているのがいい。地域を巻き込んでいけたらいい。子ども商店街は、鞆学の集大成としての場だった。4年生の防災模型も良かった。

(細田)

- 今年の4年生はとにかく元気で担任と一緒に頑張っている。体育館での防災学習も良かった。子ども商店街でのブースも含めて、取組がつながっている。29日に56年生のトンネル見学を計画している。事前学習をしっかりと行った上で行きたい。(私自身)、2月2日に能登半島に行ってきた。レベルの高い道路が通っていることがどれだけ大切か、よくわかった。鞆のトンネルが持つ意義を理解して見学してほしい。

(平岩)

- 子ども商店街について、6年生が鞆の浦体操のティッシュを配布していた。学園の子ども達からは、自分達が「やりたい」という意思の強さや、それを実現させていく力、メッセージ力を感じさせる。それがさらなるやる気につながっている。

#### ◆学校評価自己評価表について

(校長説明)

- 「可能性に挑戦する意欲と学力をつける」項目について。「節目」を大切にしていって、子ども一人ひとりが成長を実感してほしいという思いで経営してきた。子ども商店街や後期鞆学発表会では、自分達がやってきたことをしっかり整理して発表できた。先生方は子どもの成長を把握し、また先生方自信も成長を実感できた。それが次のやりがいにつながっていったと考えている。
- 二つ目の「鞆学」の項目について。去年と同じ取組に甘えることなく、常に新しいことを発見し、挑戦してきた。後期課程の自己探究では、探究がうまくすすまず悩む姿が見られた。その悩む過程が成長の証と考える。担当の先

- 生方も日々悩んでいた。児童生徒と先生方が共に歩み、真剣に考えている。
- 三つ目の「働き方改革」では、時間外勤務 1 ヶ月 45 時間以内を達成できた。また、「仕事にやりがいを感じている」項目が100%となった。ストレスチェックアンケートから分析すると、本学園の特徴として、「管理職からの支援」と「職場の同僚性」項目が高いことと関係しているようである。マイナス面として「日々の業務の質的・量的負担が多い」こともわかっている。担当学年の多さに加え、乗り入れ授業もあることから、先生方は授業準備に負担を強いられている。引き続き、「やりがい100%」の質を高めていきたい。

◆その他、さらなる改善点は

(宮本)

- 土日も含めて行事がたくさんある。その度ごとに先生方も出てきてくださっている。しっかり休みも取られてください。

(古山)

- PTAの資源回収も廃止した。先生方への強制になっては良くない。プライベートも充実してくれたら、授業の質も上がると思う。

(校長)

- PTA活動もスリム化された。土日の参加となると、なんでもボランティアというわけにはいかない。そのあたりは（地域とも）理解を頂いている。

(上野)

- 韮学の理念や進め方について、何人かの先生方とセッションをしている。地域の理解しきれない部分について、これを積極的に紐解こうとする先生と、業務としている先生もいる。この地域はよその学校と全然違う、とも言われる。それは、地域のコミュニケーションが残っている証拠である。それは韮学の理念につながるところである。ぜひ仕事のやりがいを見つけられる先生になってほしい。

(長友指導主事)

- 学校と地域が一体となって子どもを見ている。この地域は本当にそれが実現していて素晴らしいと思う。

(細田)

- 先生方の「やりがい100%」は素晴らしいと思う。つぶせる仕事はつぶして、クリエイティブな仕事に注力できる環境を作ってほしい。韮の浦学園が良いモデルとなってほしい。

(平岩)

- 地域に開かれた学校について。その土壌の上に、新たに挑戦していくという雰囲気素晴らしい。引き続き一緒にできることをやっていきたい。先生方も健康第一でお願いします。

(羽田)

- (私が働いている) さくらホームも、地域に開かれた働き方をやりたい。しかし、労働なのかボランティアなのか、答えを探すのは難しい。ともに探していきましょう。

(校長)

- 開校5年となって、子ども、親、地域がどのように義務教育学校をみているのか、また今後義務教育学校がどういう方向性を持って進めばいいのか教えてほしい。教育委員会が地域にアンケートを取りたいと考えている。

(古山)

- 「義務教育学校」といっても地域によって目指すものが違うので、ひとくくりにはできないと思う。ターゲットのセグメントをしっかりと見定めた上でアンケートを取った方がよいと思う。

### ③事務連絡

(教頭)

- 報告書を作成する上でのアンケート依頼